

第84回日本産業衛生学会の開催について

(企画運営委員長：角田 透)

第84回日本産業衛生学会ならびに特別研修会は関東地方会が担当し、2011年5月18日から20日（特別研修会：21日）にかけて、東京都港区のニューピアホール、ホテルアジュール竹芝、シーサイドホテル芝弥生、東京都立産業貿易センター浜松町館の4会場で開催された。

働くということを見つめ直した上で、産業保健に携わる我々はどのように対処するのが望ましいのか、働くということに対して産業保健はどのような役割を持つのか、を考えたいと願って、メインテーマを「働くということと産業保健ーその原点に還ってー」とし、特別講演と招待講演、教育講演4題、シンポジウム14題などからなるプログラムを企画した。

一般演題については、本学会としては初の試みであったが事前の査読を行った。武林 享プログラム委員長を中心とする委員の先生方の強力なご支援があつて初めて出来たことであり、感謝を申し上げるとともに、このことに関して多くの方々のご理解を得られ、学会運営にひとつの方向性が示されたものとして大変喜ばしいことと考える。口演のうち20題は優秀演題賞として企画運営委員長名での表彰を行った。口演もポスター発表もできるだけ多くの聴衆が集まるよう、シンポジウムなどと重ならないような運営を心がけた。

企画の概要を以下に示す。

特別講演：「Health, Work and Wellbeing - Are We Making Progress?」

招待講演：「Building and Sustaining A Healthy, Resilient, and Good Life:
Lessons from Positive Psychology」

緊急企画：「災害時の産業保健」

教育講演：「職域におけるアルコール関連問題ー最近の知見からー」

「暑熱ストレスの健康影響とその予防」

「産業保健従事者のための結核管理ーState of the Artー」

「健康会計の意義と活用」

シンポジウム：「これからの産業保健は労務管理とどうかかわっていくのか」

「運輸業務従事者の労働衛生管理ー健康管理、労務管理を踏まえてー」

「産業保健職とマネジメントスキルー習得のための教育技法を巡ってー」

「受動喫煙防止対策の義務化の影響について」

「ディベート：うつ状態の労働者の休業を巡って

～勤務させるべきか、休ませるべきか」

「医療従事者の健康的な働き方を目指して

～看護師の過重労働・シフトワーク対策を中心に～」

「職場における化学物質管理のあり方をめぐって

ー新しい視点に立った化学物質管理のフレームワークー」

「健康診断に関するエビデンスと健康診断の今後」

イブニングシンポジウム：「職域における栄養改善から取り組む生活習慣病対策

～従業員食堂を積極的に活用して取り組む」

「加齢とワークアビリティ～産業医としての関わり」

「産業化学物質におけるばく露、生物学的モニタリング、毒性評価に
おける新たな取り組みと今後のリスクマネジメント」

「メンタルヘルスと健康診断」

「世界に広がる参加型産業安全保健ネットワークの国際潮流」

「関東地方の労働衛生史」

他にも、日本学術会議共催の市民公開講座、地域交流集会、また、総会、各種の部会・委員会、学会賞・奨励賞受賞講演、研究会、フォーラム、ランチョンセミナー、イブニングセミナー、企業展示、書籍展示などが行われた。

東日本大震災というかつて経験したことのない大災害の中での開催となり、プログラムの一部については変更せざるを得なかった部分もあった。会場の規模や動線確保上の問題から、ご不便もおかけしたことと思われるが、ご参加いただいた約3,000名の方々、演者・シンポジスト・座長の先生方、関係諸機関の皆様、経済的なご支援をいただいた企業・団体・個人の皆様に感謝申し上げます。この学会は、企画・運営に尽力していただいた役員・各委員会委員をはじめとする関東地方会ご所属の先生方の全面的なご協力を得て開催することが出来た。心より御礼申し上げます。

第21回日本産業衛生学会産業医・産業看護全国協議会

(企画運営委員長：織田 進)

日本産業衛生学会九州地方会、日本産業衛生学会産業医部会、日本産業衛生学会産業看護部会、日本産業衛生学会産業歯科保健部会が主催し、福岡県医師会の共催、福岡市医師会・福岡労働局・福岡県労働基準協会連合会・日本産業衛生学会産業衛生技術部会・福岡産業保健推進センターの後援のもとに、平成23年11月23日(水)～26日(土)、アクロス福岡および西鉄イン福岡を会場にして、「社会基盤としての産業保健活動」をメインテーマとして開催され、585名(学会員453名、非学会員132名)566名が参加し、下記のプログラムを無事に終えることができました。

1. メインシンポジウム：「社会基盤としての産業保健活動」
2. シンポジウム：「人と人とのつながり（ソーシャルキャピタル）を考える」
3. 実地研修：5事業場で実施し、138名が参加した。
4. 4部会合同セミナー：福岡徳洲会病院に39名参加した。
5. リレーワークショップ：産業保健における連携として2回目であり、今回は「地域の公的関係機関との連携」を議論しました。
6. ポスターセッション：演題数45題(医師32、産業看護職13)の中から、優秀賞として産業医部会および産業看護部会から2名ずつ選出された。
7. 産業医部会企画：ソーシャルキャピタルとしての産業医活動
8. 産業看護部会企画：社会基盤としての産業看護職—ジェネラリストたちの実践活動を通じて—
9. 産業歯科保健部会企画：産業歯科保健フォーラム—企業を元気にする産業歯科保健—
10. 研究会等として、
 - (1) 職業性呼吸器疾患研究会
 - (2) 産業保健情報・政策研究会
 - (3) 大学・研究機関における安全衛生管理研究会
 - (4) 第6回交通における安全と産業衛生の研究会
 - (5) 代替医療と産業保健
 - (6) 編集委員長と話そう：藤野善久氏(産業衛生学雑誌副委員長)
 - (7) 自由集会
11. ランチョンセミナー(3題実施)
12. 懇親会：アサヒビール園での懇親会も152名の出席。
13. 同時開催研修会等として、
 - (1) 日本医師会認定産業医研修会
 - (2) 呼吸用保護具研修会